きらびと

活躍している人は輝いています。そんなキラキラする人を紹介。

大島徹之進

OSHIMA TETSUNOSHIN

2010年生まれ
新宮小学校６年生

けん玉検定マスター１級
けん玉ワールドカップ2022
10-12歳の部　９位

その実力から、けん玉を通した海外の知り合いは約200人を超える。
全国津々浦々のイベントに顔を出すこともある。

日本でも伝統玩具として、古くから親しまれている「けん玉」。

今や欧米で「けん玉」は、ストリート系スポーツ「KENDAMA」として進化。海外からのインターネット動画を通じて「イケてる遊び」として日本に逆輸入され、国内でも楽しむ人が増えている。

2022年7月のワールドカップ（10～12歳部門）で第9位という好成績を収めた大島徹之進（新宮小学校6年生）選手も「KENDAMA」の魅力に取り憑かれたプレーヤーだ。

彼とけん玉の出会いは、小学1年生のとき。父親が入学した息子に自転車を買ってあげようとしていたところ、ストリート系スポーツで有名な海外の自転車販売店が、ウェブサイトでけん玉を販売しているのを見かけ、面白半分で購入したところから始まる。

今やマスターと呼ばれる難易度の最も高い課題もクリアしている彼ですら、「最初は大皿に乗せることも難しかった」と、誰もが通る道を経験している。

世界第9位 けん玉 WORLD CUP2022 AGE 10-12 Division Ranking

しかし、海外の「KENDAMA」は、技が成功しやすいよう玉のグリップ力が高く作られているため、彼の取り組む技の成功率は徐々に向上するようになった。

そのような成功体験の積み重ねが功を奏し、2年生になるときには、毎日けん玉を握り、新しい技を習得することに没頭した。

また、海外のトッププロ選手がインターネットで配信するカッコイイ技やプレーにも魅了され、彼は、すっかりけん玉の虜になった。

道具である木の材質にもこだわり、玉はアッシュ、剣はメープルを使用。自分の筋力やスタイルに合った組み合わせに落ち着くまで、おそよ3年の月日を要した。

そんな彼の将来の夢は、宇宙飛行士になること。「JAXAの面接では、自分の得意なことを披露する課題があるので、けん玉を披露したい」と目を輝かせながら話してくれた。

「宇宙飛行士」と「けん玉」。夢と得意分野が同じ「重力」で繋がっていることは、偶然か、それとも必然か、その答えは彼のみぞ知る。